

## 刊行にあたって

科学技術と社会との接点に生起する問題は日々更新されている。2011年東日本大震災直後は、原子力発電所の安全性をどう確保するか、将来のエネルギー選択をどうするか、災害にどう対処するかに焦点があたった。2020年現在であれば、人工知能研究への社会からのコントロールはどこまで必要か、iPS細胞を用いた遺伝子治療で「速く走れる人」をつくってもいいか、気候工学は倫理的に許されるか、などが問題となろう。

現代の日本が抱える課題群は、科学技術を抜きには考えられない。しかし同時に、科学知や技術知だけでも解決できない社会の諸側面の課題が多くある。それらにどう対処するか、そのために参考となる考え方を提起するのが科学技術社会論(STS: Science, Technology and Society)である。この学問分野では、科学と技術と社会とのインターフェイスに発生する問題について、社会学、人類学、歴史学、哲学、政治学、経済学および科学計量学、科学技術政策論などの方法論を用いて探究を行っている。伝統的な専門領域に拘束されずに学際的にアプローチし、知識論、政策論、技術の使用と発展、科学の公共理解、科学コミュニケーションなどの研究を展開している。

たとえば科学技術社会論の知見のなかには「現実(このなかには既存技術を含む)を所与としてとらえるのではなく、人びとの選択の積み重ねの結果今のものになった」ことを例示する研究群がある。この考え方を日常の思考や科学技術系審議会での議論や高等教育の場面などに応用すると、どのような展望が開けるだろうか。あるいは、「技術のもつ意味は設計者が意図したもの1つに定まるのではなく、使い手のグループによって異なる形で解釈される」という先行研究群がある。この考え方をさまざまな技術の安全性論争に応用すると、どのような視点が見えてくるだろうか。さらに、「科学と非科学の境界を人びとが引こうとする作業(境界画定作業)」という視点から研究不正問題をとらえると、問題の見え方はどう変わるだろうか。

以上のように現代の日本の課題を考えるうえで、ともすると固定しがちな科学技術へのとらえ方を解きほぐし、未来に向けて社会との関係をより建設的に構築するための示唆を提供するのが本シリーズの目的である。科学技術と社会の課題や科学コミュニケーション、市民参加に興味をもつ読者、科学技術ガバナンスに興味をもつ科学技術政策関係者、そして科学技術と社会を考える教育に興味をもつ教育関係者などに開かれている。

編者を代表して 藤垣裕子

# 科学技術社会論の挑戦 全3巻

A5判・並製・平均256頁

第1巻 本体3,200円+税 第2・3巻 予価:各本体3,800円+税

## シリーズの特色

- 現代の日本の課題を考えるうえで、ともすると固定しがちな科学技術へのとらえ方を解きほぐし、未来に向けて社会との関係をより建設的に構築するための示唆を提供する。
- 科学技術社会論の研究と実践をわかりやすく伝える。
- 各巻を、総論・各論・方法論という視点から、科学技術社会論研究を網羅的にまとめた初のシリーズ。

※もよりの書店へお申し込みください

## 注文書

- |   |         |
|---|---------|
| ▶全3巻申し込みます  | [ セット ] |
| ▶第1巻 科学技術社会論とは何か<br>2020年4月刊行<br>ISBN978-4-13-064311-5 本体3,200円+税             | [ 冊 ]   |
| ▶第2巻 科学技術と社会——具体的課題群<br>2020年7月刊行予定<br>ISBN978-4-13-064312-2 予価:本体3,800円+税    | [ 冊 ]   |
| ▶第3巻「つなぐ」「こえる」「動く」の方法論<br>2020年10月完結予定<br>ISBN978-4-13-064313-9 予価:本体3,800円+税 | [ 冊 ]   |

[お客様のご住所・ご芳名]

[書店名] (取次番線)

[電話番号]

東京大学出版会 〒153-0041 東京都目黒区駒場4-5-29 <http://www.utp.or.jp/>  
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

# 科学技術 社会論の 挑戦 全3巻

〈責任編集〉  
藤垣裕子

〈協力編集〉  
小林傳司  
塚原修一  
平田光司  
中島秀人

▶第1巻  
科学技術社会論  
とは何か

▶第2巻  
科学技術と社会  
——具体的課題群

▶第3巻  
「つなぐ」「こえる」「動く」  
の方法論

東京大学出版会

## ▶第1巻

# 科学技術社会論 とは何か

科学技術社会論とは何だろうか。原発事故、気候工学、ゲノム編集など、最先端科学技術と社会との接点に発生する課題を扱い、日ごろあたりまえと考えられている事柄の見え方を変えてしまう力をもつ。イノベーション論や科学技術政策との関係もふくめて問い直す。

- 第1章 科学技術の論じ方  
…小林傳司(大阪大学)
- 第2章 ものの見方を変える  
…藤垣裕子(東京大学)
- 第3章 技術とは何か  
…柴田清(千葉工業大学)
- 第4章 イノベーション論——科学技術社会論との接点  
…綾部広則(早稲田大学)
- 第5章 科学技術政策との関係  
…小林信一(広島大学)
- 第6章 高等教育政策のなかの位置づけ  
…塚原修一(関西国際大学)
- 第7章 東アジアと欧州のSTS  
…塚原東吾(神戸大学)

## ▶第2巻

# 科学技術と社会 ——具体的課題群

現代の日本が抱える課題群は、科学技術を抜きに語れないと同時に、それだけでは解決できない社会の諸側面も考慮する必要がある。さまざまな分野と関連するSTS研究を、個別具体的な課題(メディア、教育、法、ジェンダーなど)ごとに解説し、その広がりを示す。

- 第1章 科学コミュニケーション  
…杉山滋郎(北海道大学名誉教授)
- 第2章 科学とメディア  
…田中幹人(早稲田大学)
- 第3章 科学と教育  
…笠潤平(香川大学)
- 第4章 法と科学  
…平田光司(高エネルギー加速器研究機構)
- 第5章 科学とジェンダー  
…小川眞里子(三重大学名誉教授)
- 第6章 リスク論  
…神里達博(千葉大学)
- 第7章 テクノロジーアセスメント  
…三上直之(北海道大学)
- 第8章 原子力と社会——「政策の構造的無知」にどう切り込むか  
…寿楽浩太(東京電機大学)
- 第9章 気候工学の技術哲学  
…桑田学(福山市立大学)
- 第10章 生命倫理  
…廣野喜幸(東京大学)
- 第11章 再生医療を巡る「科学と社会」  
…標葉隆馬(成城大学)
- 第12章 AIと社会  
…江間有沙(東京大学)

## ▶第3巻

# 「つなぐ」「こえる」「動く」 の方法論

科学技術と社会、研究者と市民の間を「つなぎ」、学問分野や組織の壁を「こえ」、課題を解決し、今後の問題を防ぐために、STSはどう「動く」のか。科学計量学や質的調査、市民ワークショップの手法などさまざまな方法論について、具体例を交えながら紹介する。

- 第1章 科学計量学  
…調麻佐志(東京工業大学)
- 第2章 先端科学技術の質的研究法  
…山口富子(国際基督教大学)
- 第3章 ラボラトリー・スタディーズ  
…鈴木舞(東京大学)
- 第4章 市民参加型ワークショップの設計  
…八木絵香(大阪大学)
- 第5章 科学技術の人類学——多様化する「科学技術の民族誌」  
…鈴木和歌奈(京都大学)
- 第6章 科学史とSTSの接点  
…綾部広則(早稲田大学)
- 第7章 科学哲学の方法  
…伊勢田哲治(京都大学)
- 第8章 技術哲学と技術者倫理  
…直江清隆(東北大学)・金光秀和(金沢工業大学)
- 第9章 科学社会学の方法  
…定松淳(東京大学)
- 第10章 言葉とモノ——STSの基礎理論  
…福島真人(東京大学)